

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 1 区分
 【発行日】平成27年7月30日 (2015.7.30)

【公開番号】特開2014-18091(P2014-18091A)
 【公開日】平成26年2月3日 (2014.2.3)
 【年通号数】公開・登録公報2014-006
 【出願番号】特願2012-156860(P2012-156860)
 【国際特許分類】

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

C 1 2 Q 1/68 (2006.01)

【F I】

C 1 2 N 15/00 Z N A A

C 1 2 Q 1/68 A

【手続補正書】
 【提出日】平成27年6月10日 (2015.6.10)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

下記 (a) 及び (b) のオリゴヌクレオチドからなるオリゴヌクレオチド対を用いてケトミウム・フニコラ (*Chaetomium funicola*) の種レベルでの検出を行う、ケトミウム・フニコラの検出方法。

(a) 配列番号 1 に記載の塩基配列で表されるオリゴヌクレオチド、又は配列番号 1 に記載の塩基配列において 1 個 の塩基が欠失、置換、挿入若しくは付加されておりかつケトミウム・フニコラの検出に使用できるオリゴヌクレオチド

(b) 配列番号 2 に記載の塩基配列で表されるオリゴヌクレオチド、又は配列番号 2 に記載の塩基配列において 1 個 の塩基が欠失、置換、挿入若しくは付加されておりかつケトミウム・フニコラの検出に使用できるオリゴヌクレオチド

【請求項 2】

検出を行うために、前記オリゴヌクレオチド対を用いてケトミウム・フニコラの - チュープリン遺伝子の塩基配列で表される核酸の一部を増幅し、増幅産物の有無を確認し、ケトミウム・フニコラの種レベルでの検出を行う、請求項 1 記載の検出方法。

【請求項 3】

前記 (a) 及び (b) のオリゴヌクレオチドからなるオリゴヌクレオチド対を核酸プライマーとして用いてポリメラーゼ連鎖反応法を行い、ケトミウム・フニコラの - チュープリン遺伝子の塩基配列で表される核酸の一部を増幅し、増幅産物の有無を確認し、ケトミウム・フニコラの種レベルでの検出を行う、請求項 2 記載の検出方法。

【請求項 4】

前記ケトミウム・フニコラの - チュープリン遺伝子の塩基配列が下記 (c) 又は (d) の塩基配列である、請求項 1 ~ 3 のいずれか 1 項記載の検出方法。

(c) 配列番号 3 に記載の - チュープリン遺伝子の塩基配列又はその相補配列

(d) 配列番号 3 に記載の塩基配列において 1 若しくは数個の塩基が欠失、置換、挿入若しくは付加されておりかつケトミウム・フニコラの検出に使用できる塩基配列、又はその相補配列

【請求項 5】

下記 (a) 及び (b) のオリゴヌクレオチドからなる群より選ばれるオリゴヌクレオチド、又は下記 (a) 及び (b) のオリゴヌクレオチドからなるオリゴヌクレオチド対。

(a) 配列番号 1 に記載の塩基配列で表されるオリゴヌクレオチド、又は配列番号 1 に記載の塩基配列において 1 個 の塩基が欠失、置換、挿入若しくは付加されておりかつケトミウム・フニコラ (Chaetomium funicola) の検出に使用できるオリゴヌクレオチド

(b) 配列番号 2 に記載の塩基配列で表されるオリゴヌクレオチド、又は配列番号 2 に記載の塩基配列において 1 個 の塩基が欠失、置換、挿入若しくは付加されておりかつケトミウム・フニコラ (Chaetomium funicola) の検出に使用できるオリゴヌクレオチド

【請求項 6】

前記オリゴヌクレオチドが核酸プローブ又は核酸プライマーである、請求項 5 記載のオリゴヌクレオチド又はオリゴヌクレオチド対。

【請求項 7】

前記 (a) 及び (b) のオリゴヌクレオチドがそれぞれ、下記 (c) 及び / 又は (d) の塩基配列で表される核酸にハイブリダイズすることができ、ケトミウム・フニコラを検出するための核酸プローブ又は核酸プライマーとして機能し得る、請求項 5 又は 6 記載のオリゴヌクレオチド又はオリゴヌクレオチド対。

(c) 配列番号 3 に記載の - チュープリン遺伝子の塩基配列又はその相補配列

(d) 配列番号 3 に記載の塩基配列において 1 若しくは数個の塩基が欠失、置換、挿入若しくは付加されておりかつケトミウム・フニコラの検出に使用できる塩基配列、又はその相補配列

【請求項 8】

前記 (a) 及び (b) のオリゴヌクレオチドが、ポリメラーゼ連鎖反応法によって前記 (c) 及び / 又は (d) の塩基配列で表される核酸の一部を増幅でき、ケトミウム・フニコラを検出するための核酸プライマーとして機能し得るものである、請求項 7 記載のオリゴヌクレオチド又はオリゴヌクレオチド対。

【請求項 9】

請求項 5 ~ 8 のいずれか 1 項記載のオリゴヌクレオチド又はオリゴヌクレオチド対を含むケトミウム・フニコラ (Chaetomium funicola) 検出キット。